

授業科目等の概要

令和6年度（服飾専門課程ファッションテクニカル科1年）															
分類	自由選択	種別	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○	-	総論	服飾造形論Ⅰ	衣服制作において必要な用具の使用方法や縫製用具の基礎知識を身につける。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。さらには衣服制作において必要な素材の扱い方や付属材料、裁断縫製に関する知識を身につける。	1前後	30	-	○	△	○	○		○		
○	-		ファッション史	ファッションはそれぞれの時代の政治・経済・文化と密接に関連しているという事を、「服装の歴史」を中心に理解を深める。衣服の起源から、古代・中世・近代・現代までの流れを理解することで、「繰り返す歴史」のありようを理解し、ファッションが私たちの生活にどのように影響を与えているのか考える。また次代のファッションを形作るのは自分たちである、という認識を持つようにしたい。	1前	10	-	○	○		○		○		
○	-		アパレル商品知識	ファッション販売能力検定3級の商品知識を中心にファッションアイテムの知識を身に付ける。シルエット、ディテール、名称などの基本知識だけでなく、そのアイテムが生まれた時代背景などの関連知識から学ぶことでより造詣を深め、企画、販売などアパレルのどの分野においても通用するアイテム知識を習得する。	1前	15	-	○			○		○		
○	-		アパレル素材Ⅰ	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要な不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品の管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に取り扱う素材を扱いながら、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。	1前	30	-	○	△	△	○		○		
○	-		染色	染色する為の基礎的な知識を習得し、様々な素材や染料の違いを実際に染色して確かめる。	1前	8	-	△		○	○		○		
○	-	デザイン	ファッション色彩	ファッション業界の各職種で必要とされるスキル「色＝カラーコーディネーター」。1学年はその基礎知識としてJISの規定に準拠しながら、業界での色の役割、物理的・心理的側面での色の効果と配色の理論を習得する。カラーコーディネーター力のスキルを、人間の五感を通してどのように見えるかという「視覚」と、デザインする上で必要な「配色効果」を、配色実習（カラーカード）で実践的（実験的）な演習を繰り返すことにより「色を提案出来るスキル」を習得する事を目標とする。	1前	30	-	○	○		○		○		
○	-		ドローイングⅠ	人体のプロポーションを理解し基礎力をつけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、主に平面画を習得し、縫製仕様書に必要な基礎的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。	1前	30	-	△	△	○	○			○	
○	-	企画	プロデュースショーⅠ	前期で学んできた知識、技術を活かしながら素材作り、テクニック、パターンメイキング、縫製技術を基に、卒業記念展に向けた作品制作のアイデア発想トレーニングやフォーラムの研究を行い、テーマ決めまでを行う。また、グループワークでの取り組みによってコミュニケーションスキルを身につけるとともに、2年次の作品制作に繋げていくことを目的とする。	1後	8	-	△	○		○		○		
○	-	服飾造形	パターンメイキングⅠ	パターン制作の作図理論から始まり、各種アイテム、ディテールの基本作図、各種シルエットの展開方法やパターン操作を学ぶ。また、工業用パターンを制作する上で必要な知識と、企画に基づく知識を身につける。後期はパターンメイキング技術検定3級に合格することを目標とする。	1前後	299	-	○	○	○	○		○		

○	-	服飾造形	ドレーピング I	ドレーピングに関する基本的な知識、技術を理解し、身体の構造を読み取りながら、数値にとらわれない感性豊かな服作りが出来る技能を身につける。そしてアイテム、デザイン別にシルエットを作り、布目の重要性、ボディとパターンの関係性、ドラフティングの仕方などの平面製図と比較しながらドレーピングの理解を深める。	1 後	15	-	△	○	○	○		
○	-		ソーイング I	衣服制作をする上で欠かすことの出来ない基礎的な縫い方、ミシン縫製、アイロン仕上げの方法を学び、ディテール実習、部分縫いを繰返し行いながら、衣服の縫製技術を習得する。	1 前後	439	-	○	△	○	○	○	○
○	-		ハンドワーク	手作業で装飾をするための基礎的な技術を習得し、作品のデザイン性や商品価値を高める。また、自由課題作品に応用できるテクニックを身に付け、文化祭展示作品に活かす。	1 前	30	-	△	△	○	○		○
○	-	流通・販売	市場調査 I	市場で販売されている既製服を実際に販売店舗を訪れて、どのような縫製仕様や着心地になっているのかを調査する。また価格の違いによる縫製仕様の違い、素材・付属品の違い等を調査し、今後制作するソーイング課題や作品作りに活かすとともに、将来の仕事にも繋げていけるよう平面画や縫製仕様付きのレポートにまとめる。	1 前後	16	-	△		○	○	○	○
○	-		ビジネスマナー	学生から社会人へと自己意識を変革させる。働くことの意味を真に理解し、ビジネスパーソンに必要な「考え方・行動・技術」を身に付けるために以下3つの能力を習得することを目標とする。 ・論理的思考能力、表現力、考える力、書く力、スピーチ力 ・企業における組織のしくみやPDCA・ホウレンソウなどの仕事の進め方 ・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー（挨拶・お辞儀・敬語・訪問・来客・電話・文書）	1 前後	60	-	○	○		○		○
合計			14 科目		単位時間 :		1,020		時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
指定された教室及び実習を通して、知識・技術を習得する。 前期試験（9月）、後期試験（進級試験）及び、各科目の提出物、出席で評価。		1学年の学期区分	前・後期
		1学年の授業期間	全42週
進級クラスは前期4-9月末を19週とし、後期10月-3月までを23週とする。 卒業クラスは前期4-9月末を19週とし、後期10月-3月までを22週とする。			

（留意事項）

- 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。